## 9. IC カード社会の到来

新年号ということで、初夢をひとつお届けしよう。あなたは 1 枚のカードを持っている。それは相当の記憶容量をもった IC カードで、あなたの住所、氏名、生年月日、性別に加えて、履歴書、健康保険証番号や病歴、治療経過が顔写真、レントゲン写真などの画像データとともに記録されている。さらにこのカードはクレジットカードと銀行のキャッシュカードも兼ねており、高速道路の通行に際しても、通信装置を取りつけた車にこのカードを差し込んでおくだけで自動的に距離計算をして料金を徴収してくれる。テレフォンカードとしても使えることはいうまでもない。

なんとすばらしいカードなのだろう。これであなたは、全国どこで行き倒れても、かつぎこまれた病院の医師に、これまでの病歴や常用している薬をいちいち説明する必要もなく直ちに適切な治療をうけることができる。遠くの町にいても住民票や戸籍謄本の発行が迅速に行われるであろうし、高速道路の料金所でいらいらしながら順番を待つこともない。指紋や声紋、光彩などのバイオメトリックス情報もインプットされているので、完璧な身分証明書としても使用できる。世界中の国がこのカードシステムを採用してくれさえすれば、パスポートとしてすら使えるようになるだろう。また、あらゆる個人情報を記載したこのカードを使えば、役所をたらい回しにされることもなく、ワンストップサービスといってひとつの窓口で複数の行政機関のサービスが受けられる。なにより、ちょっと前までのように、財布が何枚ものカードでふくれあがるということもない。

あなた個人にとって有用なだけではない。みんながこのカードを使うことによって、道路渋滞も軽減されるし、各種の保険金や年金などの受給過誤もなくなり、行政コストも大幅に下がったことで、わずかではあるが減税にも結びついた。また、未成年者が煙草や酒をコンビニで買うこともなくなった。清廉潔白なあなたには関係ないことだけれども犯罪者の摘発に大いに役に立ってもいる。なにせ、どこからどこまで高速を利用したか、いつの新幹線に乗ったか、どこでどんな買い物をしたかの記録が全部残っているのだから、犯罪者にとってはやりにくいことこのうえない。でも、あなたが先週借りたエッチビデオが何かという記録がレンタルビデオ店に残っていることも確かなようだけれど。

そうそう、あなたはサニタリーグッズを扱う会社の営業課員だった。数年前までは、この種の商品の顧客調査はたいへんだった。レストランなんかではみんなすぐアンケートに答えてくれるので、ちょっとしたサービス券でもつければいくらでも顧客データが集まるんだろうけれども、商品が商品だけにマーケッティングリサーチはなかなか難しく、大学の先生なんかといっしょに「データマイニング・オリンピック」なんていう名前の研究会を開いてデータ収集の方法について議論したこともあった。でも、今では顧客データは簡単に収集できる。商品の流通コストも下がって営業もずいぶん楽になった。おかげで暮れのボーナスも上がったし、こうやって正月休みに温泉で朝から一杯機嫌でうとうととしていることもできるというもんだ・・・・・・・・・・

というところで目が覚めたあなた。このカードを持ちたいと思いますか。実は、これらの話は遅かれ早かれ正夢になる。つまり、この初夢はさまざまな官界、学会、業界の権威ある人々の提言を再構成したもので、そのうちいくつかは、2001 年から 2003 年にかけて実現される見通し

なのである。10 月号では「住民基本台帳法」の改正について検討したが、まもなく健康保険証も IC カード化されるようになることがつい先日発表された。現在のところは 2 枚のカードが別々に発行される見通しだが、政府としては将来的にこれらのカードを統合する方向で検討しているという。おそらくは、多くの人がこのシステムを歓迎するだろう。それを「プライバシー意識の欠如」とか「人権意識の未熟さ」といった言葉で単純に非難することはできない。それほどこのシステムは「便利」なのだ。必要なのは、プライバシーや人権といった、重要ではあるが曖昧な概念を、高度情報化社会のありうべき姿と関係させつつ再構築することだろう。具体的には、このカードを持たない自由、つまりはそれによるありあまる恩恵を犠牲にしてでもその所持を拒否する自由が保障されうるかという点、あるいは不所持によって発生するであろう個人の不利益を最小限のものにとどめるにはどうすればよいかという点が問題となるだろう。私個人の場合は、持ちたくはないが、おそらくは必要に迫られて、あるいは便利さへの誘惑に負けて最終的には持ってしまうといったところではないだろうか。それはちょうど以前触れた携帯電話の場合と同じである。

(2001 年 2 月号)